



Release

フランクフルト・アム・マイン

2023年10月25日

ドイツ銀行、2023年年初からの9カ月間で税引前利益50億ユーロを計上し、資本見通しを上方修正

2023年年初からの9カ月の税引前利益は、収益の伸び率およびコスト管理を反映し、3%増加

- 純収益は、前年同期から6%増加し、222億ユーロ
- 943百万ユーロの営業関連以外のコスト¹を含む利息以外の費用は7%増加し、162億ユーロ
- 調整済コスト¹は、インフレ圧力にもかかわらず2%増加し、153億ユーロ
- 税引後利益は、税率上昇を反映して6%減少し、35億ユーロ
- 税引後有形株主資本利益率 (RoTE)¹は7%、費用収益比率は73%
- 調整済税引後 RoTE¹は9%、費用収益比率は68%
- 純資金流入は、プライベート・バンクおよびアセット・マネジメント全体で390億ユーロ

強固な資本管理および資本見通しの改善は、事業の成長ならびに分配目標の加速および拡大を後押し

- 普通株式等 Tier1 (CET1) 資本比率は、38 ベーシスポイントの規制上の影響および自社株の買戻しを吸収後、13.9%に上昇
- RWA 削減の可能性の拡大および2025年までのバーゼル III の推計値の更新により、30億ユーロまでの追加資本を確保する余地が発生
- 資本分配は、2022年および2023年年初からの9カ月間にわたり、16億ユーロに到達

2023年第3四半期の税引前利益は、前年同四半期から7%増加し、17億ユーロ

- 税引後利益は、税率上昇を反映して3%低下し、12億ユーロ
- 税引後 RoTE¹は7.3%、費用収益比率は72%

2023年第3四半期におけるさらなる収益の伸び率および資金流入

- 純収益は、前年同四半期から3%増加し、71億ユーロ
- 純資金流入は、プライベート・バンクおよびアセット・マネジメント全体で110億ユーロ
- 2023年通年の収益は290億ユーロまでとなる予想

2023年第3四半期も引き続きコスト管理を実施

- 利息以外の費用は、前年同四半期から4%増加し、52億ユーロ
- 調整済コスト¹は、インフレ圧力にもかかわらず2%増加し、50億ユーロ
- 業務効率の進展のためのさらなる施策を実施中

2023年第3四半期における強固なリスク管理およびバランスシート管理

- 信用損失引当金は、245百万ユーロとなり、貸出平均残高に対する割合は、20 ベーシスポイント
- 預金は、180億ユーロ増加し、6,110億ユーロ
- 流動性カバレッジ比率は、132%となり、超過額は510億ユーロ

チーフ・エグゼクティブ・オフィサーのクリスティアン・ゼーヴィングは、次のように述べています。

「今回の決算は、堅調で持続的な成長モメンタムと継続的なコスト管理が組み合わさったものです。さらに、好調な業績と集中的な資本効率の改善により、資本見通しを大幅に改善しました。これにより、グローバル・ハウスバンクとしての成長に投資し、リターンをさらに向上させ、株主への分配を増加・加速させることが可能となります。」

ドイツ銀行（銘柄コード XETRA:DBGn.DB/NYSE:DB）は、本日、2023年第3四半期における17億ユーロの税引前利益の計上を発表しました。これは、2022年第3四半期から7%の増加であり、2006年以降の第3四半期としては過去最高となりました。

2023年第3四半期の税引後利益は、前年同四半期と比較して3%減少し12億ユーロとなりました。前年同四半期からの推移は、収益源の地理的分散から利益を得た前年同四半期の23%と比較して、2023年第3四半期の実効税率が30%になったことを反映したものです。

税引後RoTE¹は、2022年第3四半期の8.2%と比較して7.3%となりました。税引後平均株主資本利益率（RoE）は、前年同四半期の7.4%から低下して6.5%となりました。両比率の前年同四半期からの推移は主に、税率の上昇、有機的資本の創出による総資本の増加および前年同四半期比でのその他Tier1資本証券（AT1証券）のクーポンの増加を反映したものです。これらの影響は、税引前利益の成長によるプラスの影響を上回りました。費用収益比率は、前年同四半期と変わらず72%となりました。

2023年年初からの9カ月間の税引前利益は、2022年年初からの9カ月間の170百万ユーロから増加した943百万ユーロの営業関連以外のコストを吸収後、前年同期から3%増加して50億ユーロとなりました。営業関連以外のコストを除くと、税引前利益は前年同期の50億ユーロから19%増加して、2023年年初からの9カ月間に59億ユーロとなります。2023年年初からの9カ月間の税引後利益は、前年同期から6%減少して35億ユーロとなり、かかる前年同期からの推移は、営業関連以外のコストの増加および前年同期の24%と比較した30%の実効税率を反映したものです。

2023年年初からの9カ月間の税引後RoTE¹は、前年同期の8.1%と比較して7.0%となり、税引後RoEは前年同期の7.2%から低下して6.3%となりました。両比率の前年同期からの推移は、前年同期比で前述の税率が上昇し、総資本およびAT1証券のクーポンが増加したことを反映したものです。費用収益比率は、前年同期と変わらず73%となりました。

チーフ・ファイナンシャル・オフィサーのジェームス・フォン・モルトケは、次のように述べています。

「資本効率および将来の規制要件の範囲に関する当行の進捗は、追加資本を確保できる当行の可能性をより明確にしました。収益の伸び率の見通しが改善し、リスク管理が強化され、コスト管理が継続されたことで、当行は、環境の不確実性にもかかわらず、当行の成長戦略および株主利益率戦略を加速させることができる自信が高まりました。」

銀行税が均等に配分されたと仮定し、かつ営業関連以外のコストを除く場合には、税引後RoTE¹は、2022年年初からの9カ月間の8.7%から上昇して8.8%となります。税引後RoEは、前年同期の7.8%から上昇して7.9%となります。費用収益比率は、前年同期の71%から減少して68%となります。

加速したグローバル・ハウスバンク戦略の進展

ドイツ銀行は、2023年第3四半期において、すべての側面でグローバル・ハウスバンク戦略の加速化を進めました。その概要は、以下のとおりです。

- **収益の伸び率**：ドイツ銀行の収益は、2023年年初からの9カ月間において前年同期から6%増加となる成長を遂げ、2023年9月30日までの12カ月間における2021年からの複合年間成長率は3.5%から4.5%としていた当行の目標を上回って6.9%となり、当行は2023年通年の収益を約290億ユーロと予想しています。当行は、資本効率が高く手数料収入を生み出す事業へのさらなる戦略的投資を行い、2023年10月初旬には英国の法人向けブローカーであるヌミスの買収を完了しました。プライベート・バンクおよびアセット・マネジメントは、2023年年初からの9カ月間に合計で390億ユーロの純資金流入をもたらした、これが当該期間において、かかる二つの事業全体で660億ユーロの運用資産の成長をもたらしました。
- **業務効率**：ドイツ銀行は、主に2025年までに、年間25億ユーロの業務効率の向上を目指します。主要な取組みは概ね予定どおりか、または予定より早く進んでおり、非顧客対応業務に

従事する上級従業員の人員削減施策が完了し、さらなる従業員効率化施策も講じられています。現在進行中のさらなる施策には、フロントオフィスとバックオフィスの間のプロセスの合理化および販売ネットワークの最適化が含まれ、2023年年初からの9カ月間において、支店数は93支店削減されました。

- **資本効率**：ドイツ銀行の150億ユーロから200億ユーロの2025年RWA最適化目標のうち約100億ユーロは、収益へ重大な影響を与えることなく、2023年第3四半期末までに既に達成されました。2023年第3四半期においては、データおよびプロセスの強化ならびに証券化取引の追加等の進展がありました。ヘッジの最適化およびサブハードル貸出の削減を含む、追加のポートフォリオ施策も進展中です。現在までの進展およびさらなる削減の可能性を考慮して、当行は、RWA削減目標を100億ユーロ増やし、250億ユーロから300億ユーロの範囲とすることを確認しています。加えて、当行の直近の分析では、バーゼルIII要件の実施によるRWAへの影響は、当初の想定を下回って100億ユーロから150億ユーロとなることが示されています。総合すると、これらの要因は、2025年までに約30億ユーロの追加資本を確保する可能性をもたらします。

収益：戦略目標を上回る実績

2023年第3四半期の**純収益**は、前年同四半期から3%増加して71億ユーロとなり、特定項目を調整したベースでは6%の増加となりました。かかる項目には、プライベート・バンクにおいてサル・オープンハイムに係るワークアウト業務から前年のプラスの影響が生じなかったこと、およびインベストメント・バンクにおいて債務評価調整（DVA）からの利益が減少したことが含まれます。2023年年初からの9カ月間の純収益は、前年同期から6%増加して222億ユーロとなり、特定項目を除くベースでは8%の増加となりました。

事業別の収益の動向は、以下のとおりです。

- 2023年第3四半期の**コーポレート・バンクの純収益**は、前年同四半期から21%増加し、19億ユーロでした。すべての部門において前年同四半期から2桁の増加となり、この増加は、好調な純利息収益および継続的な価格統制によるものでした。コーポレート・トレジャリー・サービスの収益は11%増加して10億ユーロ、機関投資家向けサービスの収益は18%増加して472百万ユーロ、ビジネス・バンキングの収益は71%増加して369百万ユーロとなりました。預金は2023年第3四半期に150億ユーロ増加し、2,860億ユーロとなりました。**2023年年初からの9カ月間**の純収益は前年同期から27%増加して58億ユーロでした。コーポレート・トレジャリー・サービスの収益は19%増加して33億ユーロ、機関投資家向けサービスの収益は23%増加して14億ユーロ、ビジネス・バンキングの収益は69%増加して11億ユーロとなりました。ドイツ銀行は、「ザ・バンカー」の2023年トランザクション・バンキング・アワードにおいて、「キャッシュ・マネジメント最優秀銀行」および「トランザクション・バンク・オブ・ザ・イヤー（西ヨーロッパ部門）」に選ばれました。
- 2023年第3四半期の**インベストメント・バンクの純収益**は、前年同四半期から4%減少し23億ユーロ、前述のDVAによる利益の減少（前年同四半期の91百万ユーロから5百万ユーロへの減少）を調整したベースではほぼ横ばいでした。債券および為替（FIC）の収益は、前年同四半期の例外的な水準から12%減少して19億ユーロとなりました。クレジット・トレーディングの収益は、フロー・ビジネスの改善および好調な不良債権業務によって著しく増加した一方、金利、外国為替、エマージング・マーケットおよび資金調達業務の収益は、異例の高水準となった前年同四半期と比較して減少しました。オリジネーションおよびアドバイザーにおける収益は、前年同四半期の3倍を超えて増加し323百万ユーロ、前年同四半期においてレバレッジド貸出の評価減が生じなかった場合を調整したベースでは56%増加しました。レバレッジド・デット・キャピタル・マーケットは、市場シェアが前年同四半期から回復して、業界の手数料プールの減少を反映した投資適格債券およびアドバイザーの収益の前年同四半期からの減収（出所：ディールロジック）を上回りました。**2023年年初からの9カ月間**の純収益は、前年同期から12%減少して73億ユーロとなりました。オリジネーションおよび

びアドバイザーにおける収益が17%増加して941百万ユーロとなった一方、FICの収益は13%減少して64億ユーロとなりました。ドイツ銀行は、2023年ユーロマネーFXアワードにおいて、「ベスト・グローバルFXプロバイダー」に選ばれました。

- 2023年第3四半期の**プライベート・バンクの純収益**は、前年同四半期から3%増加し23億ユーロ、前年同四半期におけるサル・オープンハイムのワークアウト業務が生じなかった場合を調整したベースでは9%増加しました。純金利差益の上昇の影響を受けた預金商品の増収は、手数料収入の減少、貸出金収益の減少および為替レートの変動による前年同四半期比でのマイナスの影響を上回りました。プライベート・バンク（ドイツ）の収益は、前年同四半期から16%増加して15億ユーロとなりました。インターナショナル・プライベート・バンクの収益は、前年同四半期から13%減少して845百万ユーロ、サル・オープンハイムのワークアウト業務による110百万ユーロの収益および2022年第4四半期に売却されたイタリアにおけるドイチェ・バンク・ファイナンシャル・アドバイザーズによる約15百万ユーロの収益、ならびに約20百万ユーロの為替レートによるマイナスの影響が生じなかった場合を調整したベースでは2%増加しました。2023年第3四半期における運用資産は50億ユーロ増加して5,470億ユーロとなり、これは、90億ユーロの純資金流入および30億ユーロの為替レートの変動によるプラスの影響が、市場水準の低下による70億ユーロのマイナスの影響を上回ったことによるものでした。**2023年年初からの9カ月間**の純収益は、前年同期から8%増加して72億ユーロ、前年同期のサル・オープンハイムのワークアウト業務による119百万ユーロの収益が生じなかった場合を調整したベースでは10%増加しました。プライベート・バンク（ドイツ）の収益は、15%増加して46億ユーロとなりました。インターナショナル・プライベート・バンクの収益は、3%減少して26億ユーロ、前述の前年のサル・オープンハイムのワークアウト業務による収益およびドイチェ・バンク・ファイナンシャル・アドバイザーズによる約50百万ユーロが生じなかった場合、ならびに15百万ユーロの為替レートの不利な変動を調整したベースでは4%増加しました。運用資産は、2023年年初からの9カ月間において280億ユーロ増加し5,470億ユーロとなり、これは主に、220億ユーロの純資金流入に影響を受けたものでした。
- 2023年第3四半期の**アセット・マネジメントの純収益**は、前年同四半期から10%減少し、594百万ユーロでした。この結果は主に、運用報酬の減少、共同投資の時価評価および為替レートの変動を反映したものです。2023年第3四半期の運用資産は、わずかに増加して8,600億ユーロとなりました。パッシブ運用業務による20億ユーロの純資金流入および為替レートの有利な変動が、市場評価の低下による影響を上回りました。**2023年年初からの9カ月間**の純収益は、マネジメント・フィーの減少および投資収益の著しい減少を反映し、2022年年初からの9カ月間と比較して10%減少し、18億ユーロとなりました。2023年年初からの9カ月間の運用資産は、2022年年初からの9カ月間における940億ユーロの減少と比較して、380億ユーロ増加しました。この中には、前年同期の180億ユーロの純資金流出に対し、170億ユーロの純資金流入が含まれています。

利息以外の費用：調整済コストがわずかに増加

2023年第3四半期の**利息以外の費用**は、前年同四半期から4%増加し、52億ユーロとなりました。かかる増加は、営業関連以外のコストが前年同四半期の75百万ユーロから増加して199百万ユーロとなったこと等を反映したもので、その内訳は、主に長年の係争案件に関連する訴訟費用105百万ユーロならびに当行のグローバル・ハウスバンク戦略の加速化に関連する再編費用および退職費用94百万ユーロとなります。これらの項目を除く調整済コストは、2%増加して50億ユーロとなり、最近の期間における事業成長、テクノロジーおよび統制への投資の累積的な影響にもかかわらずインフレ率を下回りましたが、良好な為替レートの変動によって一部相殺されました。

2023年年初からの9カ月間の利息以外の費用は、前年同期から7%増加して162億ユーロとなりました。かかる前年同期からの増加は、営業関連以外のコストが2022年年初からの9カ月間における170百万ユーロから増加し、943百万ユーロとなったことによるものです。調整済コストは、継続的な投資

およびインフレの逆風にもかかわらず、前年同期から 2%（為替レートの変動を除くと 3%）増加し、152 億ユーロでした。

2023 年第 3 四半期において、**従業員**（常勤相当）は、内部の従業員（常勤相当）が 2,204 名増加し、89,260 名となりました。かかる増加は、戦略的雇用、2023 年第 3 四半期における新卒者の入社および外部の従業員（常勤相当）の継続的な内部雇用を反映したものであり、2023 年第 3 四半期における業務効率化施策に関連する離職者によって、一部相殺されました。

信用損失引当金は通年の指針に沿った水準を維持

2023 年第 3 四半期の**信用損失引当金**は、2023 年第 2 四半期の 401 百万ユーロから減少し、245 百万ユーロとなりました。正常債権（ステージ 1 およびステージ 2）は、101 百万ユーロの引当金の戻入れとなりました。これは、モデルの変更ならびに主にコーポレート・バンクおよびインベストメント・バンクに影響を与える米国のマクロ経済予測の改善を反映したものです。不良債権（ステージ 3）に対する引当金は、2023 年第 2 四半期の 338 百万ユーロからわずかに増加して 346 百万ユーロとなりました。

2023 年年初からの 9 カ月間の信用損失引当金は 10 億ユーロとなり、貸出平均残高に対する割合は 28 ベースポイントでした。ドイツ銀行は、2023 年通年の信用損失引当金がレンジの上限である 25 ベースポイントから 30 ベースポイントになるとの見通しを再確認しています。

強固な資本管理

2023 年第 3 四半期末現在の**普通株式等 Tier1 (CET1) 資本比率**は、2023 年第 2 四半期末現在の 13.8% から上昇して 13.9% となり、当行の 2025 年資本目標である約 13% を大きく上回りました。この上昇は、純利益からの有機的資本の創出、当行の資本効率化施策の一環としてのデータおよびプロセスの最適化による利益ならびに信用リスク RWA 削減によるプラスの影響を反映したものです。これらは、指標に沿ったものであり、主に新たに承認された卸売モデルおよび小売モデルの初回認識を反映した規制変更による 38 ベースポイントのマイナスの影響ならびに自社株の買戻しおよび配当金の控除によるマイナスの影響を上回りました。

2023 年第 3 四半期の**レバレッジ比率**は 4.7% となり、2023 年第 2 四半期と同水準となりました。レバレッジ・エクスポージャーが 10 億ユーロ減少して 1 兆 2,350 億ユーロとなったことによるプラスの影響は、2023 年第 3 四半期における CET1 資本移動に伴う Tier1 資本の変更により相殺されました。

2023 年第 3 四半期における**自社株の買戻し**は、約 27.5 百万株となり、対価総額は約 271 百万ユーロで、2023 年 7 月 25 日に発表された 2023 年末までに予想される 450 百万ユーロの 60% 強に相当します。これにより、自社株の買戻しおよび配当による株主への配当総額は、2022 年通年および 2023 年年初からの 9 カ月間にわたり約 15.7 億ユーロとなり、2023 年には 10 億ユーロ超、2022 年および 2023 年には 17.5 億ユーロ超の配当総額という当行の目標に向けて順調に進んでおり、2024 年にはさらなる自社株の買戻しが見込まれます。

流動性および資金調達力

2023 年第 3 四半期末現在の**流動性準備金**は、2023 年第 2 四半期末現在の 2,440 億ユーロからわずかに増加して 2,450 億ユーロとなりました。これには、2,100 億ユーロの質の高い流動性資産が含まれます。流動性カバレッジ比率は 132% となり、規制要件である 100% を上回り、超過額は 510 億ユーロとなりました。安定調達比率は、当行の目標範囲である 115% から 120% をわずかに上回る 121% となり、要求水準に対する超過額は 1,050 億ユーロとなりました。

預金は、前述のコーポレート・バンクの預金における 150 億ユーロの増加を主な要因として、2023 年第 3 四半期において 180 億ユーロ増加して 6,110 億ユーロとなりました。

サステナブル・ファイナンス：目標達成に向けたさらなる進展

2023年第3四半期の環境・社会・ガバナンス（ESG）関連ファイナンスおよび投資の取引高²は110億ユーロ（DWSを除きます。）となり、2020年1月1日以降の累積取引高は、2023年年初からの9カ月間の500億ユーロを含め、2,650億ユーロとなりました。ドイツ銀行は2025年末までに累積取引高を5,000億ユーロ超（DWSを除きます。）とすることを目標としています。

2023年第3四半期におけるドイツ銀行の各事業部門は、以下のとおり貢献しました。

- **コーポレート・バンク**：サステナブル・ファイナンスの取引高は30億ユーロとなり、2020年1月1日以降のコーポレート・バンクの累積取引高は500億ユーロに増加しました。
- **インベストメント・バンク**：サステナブル・ファイナンスの取引高およびサステナブル関連資本市場発行高は70億ユーロとなり、2020年1月1日以降の累積取引高は1,590億ユーロとなりました。
- **プライベート・バンク**：ESG運用資産および新規貸出しは10億ユーロの増加となり、2020年1月1日以降の累積取引高は560億ユーロとなりました。

2023年10月19日に、ドイツ銀行は、当行のこれまでの達成状況および2050年までの排出量ネットゼロ達成に向けた将来のロードマップを概説した**初期移行計画**を公表しました。この公表には、当行の業務、バリューチェーンおよび顧客との取引における排出削減に関する当行の戦略、方針およびこれまでの達成状況が含まれます。また、移行計画には、ネットゼロ・バンキング・アライアンスのメンバーとしてのドイツ銀行のコミットメントに沿って、当行の法人向け貸出ポートフォリオで三つの追加の炭素集約型セクターにおけるネットゼロ目標も含まれています。

2023年10月10日に、ドイツ銀行は、新たに**自然諮問委員会**の設立を発表しました。本委員会は、当行が自然関連リスクを評価し、生物多様性の損失から回復するという課題に結びつく新たな金融商品の特定を支援することを目的としています。本委員会は、国際連合、世界自然保護基金およびザ・ネイチャー・コンサーバンシーを含む外部組織からの専門家とともに、ドイツ銀行のシニア・エグゼクティブが参加しています。

グループ業績概要

特記表示がない限り 単位：百万ユーロ	2023年 9月30日に 終了した 3カ月間	2022年 9月30日に 終了した 3カ月間	変動額	増減 (%)	2023年 9月30日に 終了した 9カ月間	2022年 9月30日に 終了した 9カ月間	変動額	増減 (%)
純収益合計：	7,132	6,918	214	3	22,221	20,895	1,326	6
内：								
コーポレート・バンク (CB)	1,889	1,564	325	21	5,805	4,577	1,228	27
インベストメント・バンク (IB)	2,271	2,372	(101)	(4)	7,323	8,341	(1,018)	(12)
プライベート・バンク (PB)	2,343	2,267	75	3	7,180	6,647	533	8
アセット・マネジメント (AM)	594	661	(66)	(10)	1,803	1,998	(195)	(10)
コーポレートおよびその他 (C&O)	35	55	(20)	(36)	110	(667)	777	N/M
信用損失引当金	245	350	(105)	(30)	1,017	875	143	16
利息以外の費用	5,164	4,954	211	4	16,223	15,201	1,022	7
税引前利益(損失)	1,723	1,615	108	7	4,980	4,820	161	3
利益(損失)	1,201	1,242	(42)	(3)	3,462	3,680	(218)	(6)
ドイツ銀行株主に帰属する利益(損失)	1,031	1,115	(85)	(8)	2,951	3,222	(270)	(8)
普通株式等 Tier1 資本比率 ¹	13.9%	13.3%	0.6ppt	N/M	13.9%	13.3%	0.6ppt	N/M
レバレッジ比率 ¹	4.7%	4.3%	0.4ppt	N/M	4.7%	4.3%	0.4ppt	N/M

N/M: 意味のある比較不能

過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されています。

¹ 期末現在

1 本項目およびその他の GAAP 以外の財務的測定尺度の詳細については、2023 年第 3 四半期補足財務データ（英文）の 15 頁から 20 頁の「GAAP 以外の財務的測定尺度」および 2023 年第 3 四半期収益報告書（英文）の 56 頁から 61 頁の「GAAP 以外の財務的測定尺度」をそれぞれご参照ください。

2 累積 ESG 取引高には、2021 年 5 月 20 日開催のドイツ銀行のサステナビリティ・ディープ・ダイブでの決定に従い、コーポレート・バンク、インベストメント・バンクおよびプライベート・バンクにおける、2020 年 1 月 1 日から当四半期末までのサステナブル・ファイナンス（フロー）および投資（ストック）が含まれています。対象となる商品には、資本市場における発行（ブックランナーを務めた分のみ）、サステナブル・ファイナンスおよび当四半期末現在の運用資産が含まれます。累積取引高および目標には、DWS により別個に報告される、DWS の ESG 運用資産は含まれません。

ドイツ銀行の事業の 2023 年第 3 四半期の業績の詳細は、2023 年 9 月 30 日に終了した期間に関する収益報告書（英文）により入手可能です。

ドイツ銀行について

ドイツ銀行は、個人顧客、中小企業、事業法人、各国政府および機関投資家に対し、リテール・バンキング、プライベート・バンキング、コーポレート・バンキング、トランザクション・バンキング、融資、資産運用の商品およびサービスならびに焦点を絞った投資銀行業務を提供しています。ドイツ銀行は、欧州に深く根ざしつつグローバル・ネットワークを有するドイツ有数の銀行です。

将来の事象に関する記述

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、ドイツ銀行の考えおよび予想ならびにその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行グループの経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。したがって、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在のものであって、当グループはこれらの記述に関して、新しい情報または将来生じた事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。したがって、いくつかの重要な要因が作用して、実際には将来の事象に関する記述に含まれるものとは大きく異なる結果となる可能性があります。

これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国および当グループが収益の相当部分を上げ、資産の相当部分を有するその他の地域における金融市場の動向、資産価値の推移および市場のボラティリティ、借り手または取引相手による将来の債務不履行、当グループの経営戦略の実施、当グループのリスク・マネジメントの方針、手続および方法への信頼性ならびに米国証券取引委員会（SEC）への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SEC に提出した当グループの 2023 年 3 月 17 日付年次報告書（Form 20-F）の「リスク・ファクター」の表題のもとで詳しく記載されています。当該文書の写しは、請求により入手可能であり、また www.db.com/ir からダウンロードすることができます。

会計の基準

上記の当行の業績は、国際会計基準審議会（IASB）により発行され、欧州連合（EU）が支持している国際財務報告基準（IFRS）に準拠して作成されています。これには、2020 年以降、満期到来前の預金に対するポートフォリオ公正価値ヘッジ会計および期限前弁済条項付固定金利モーゲージの適用（以下「EU カーブアウト」といいます。）が含まれます。EU カーブアウトに基づく公正価値ヘッジ会計は、各テナーのプールにおける金利のプラス・マイナス両方の動きに対する会計エクスポージャーを最小限に抑えることで、トレジャリーの活動により報告される収益のボラティリティを削減するために用いられます。

2023 年 9 月 30 日に終了した 3 カ月間について、EU カーブアウトの適用は、当行の税引前利益に 649 百万ユーロ、利益に 460 百万ユーロのマイナスの影響をもたらしました。2022 年 9 月 30 日に終了した 3 カ月間について、EU カーブアウトの適用は、当行の税引前利益に 753 百万ユーロ、利益に 595 百万ユーロのプラスの影響をもたらしました。2023 年 9 月 30 日に終了した 9 カ月間について、EU カーブアウトの適用は、当行の税引前利益に 400 百万ユーロ、利益に 283 百万ユーロのマイナスの影響をもたらしました。2022 年 9 月 30 日に終了した 9 カ月間について、EU カーブアウトの適用は、当行の税引前利益に 156 百万ユーロ、利益に 122 百万ユーロのマイナスの影響をもたらしました。当行グループの規制自己資本およびその比率についても、EU カーブアウトを伴う IAS 第 39 号を用いて報告しています。2023 年 9 月 30 日に終了した 9 カ月間について、EU カーブアウトの適用は、CET1 資本比率に約 8 ベーシスポイントのマイナスの影響をもたらし、2022 年 9 月 30 日に終了した 9 カ月間については、約 3 ベーシスポイントのマイナスの影響をもたらしました。いずれの期においても、EU カーブアウトの正味の影響

は、ヘッジ対象のポジションの時価評価の変動およびヘッジ手段によって、プラスにもマイナスにもなる可能性があります。

GAAP 以外の財務的測定尺度の使用について

本リリース、および当行が発行しているまたは発行する可能性があるその他の書面には、GAAP 以外の財務的測定尺度が含まれています。GAAP 以外の財務的測定尺度とは、当行の過去もしくは将来の経営成績、財政状態またはキャッシュ・フローの尺度で、当行の財務諸表において IFRS に従って計算および表示された最も直接的に比較可能な尺度から、場合により、これに含まれている（または除外されている）金額を除外する（または含める）調整を行うものです。当行の GAAP 以外の財務的測定尺度およびこれと最も直接的に比較可能な IFRS の財務的測定尺度の例は、以下をご参照ください。

GAAP以外の財務的測定尺度

最も直接的に比較可能なIFRSの財務的測定尺度

営業関連以外のコストを除く税引前利益（損失）	税引前利益（損失）
ドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）、ドイツ銀行株主およびその他の資本構成に帰属する利益（損失）、比例按分ベースの銀行税に基づき、営業関連以外のコストを除くドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）	利益（損失）
特定項目を除く収益、通貨換算の影響を調整したベースでの収益	純収益
調整済コスト、比例按分ベースの銀行税に基づく利息以外の費用、通貨換算の影響を調整したベースでのコスト、営業関連以外のコスト、営業関連以外のコストを除く利息以外の費用	利息以外の費用
比例按分ベースの銀行税に基づき、営業関連以外のコストを除く費用収益比率	利息以外の費用に基づく費用収益比率
純資産（調整後）	資産合計
有形株主資本、平均有形株主資本、有形帳簿価額、平均有形帳簿価額	株主資本合計（帳簿価額）
税引後平均株主資本利益率（AT1証券のクーポン控除後のドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）に基づく）、税引後平均有形株主資本利益率（AT1証券のクーポン控除後のドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）に基づく）、営業関連以外のコストを除く税引後平均株主資本利益率、比例按分ベースの銀行税に基づき、営業関連以外のコストを除く税引後平均株主資本利益率、営業関連以外のコストを除く税引後平均有形株主資本利益率、比例按分ベースの銀行税に基づき、営業関連以外のコストを除く税引後平均有形株主資本利益率	税引後平均株主資本利益率
基本的流通株式1株当たり有形純資産、基本的流通株式1株当たり資産	流通株式1株当たり資産

特定項目を除く収益は、一般的に事業の通常の性質または範囲外にあり、部門別業績の正確な評価を歪曲させてしまう可能性のある特定収益項目を指し、IFRSに基づく純収益を調整して計算されます。除外項目は、債券の評価調整額（DVA）および本質的に一回限りの項目または損益の影響が特定の期間に限定される関連取引もしくは事象のポートフォリオに属する重要な取引もしくは事象です。

通貨換算の影響を調整したベースでの収益およびコストは、ユーロ以外の通貨建てで発生または被った過去の会計期間の収益およびコストを、当該会計期間における外国為替レートによりユーロに換算することで計算します。これらの調整後の数値およびそれに基づく過去の会計期間との比較によるパーセンテージの変化は、基礎となる取引高の状況についての情報を提供することを意図しています。

調整済コストは、IFRSに基づく利息以外の費用から、(i)のれんその他の無形資産の減損、(ii)正味の訴訟費用ならびに(iii)再編費用および退職費用（併せて**営業関連以外のコスト**と総称します。）を控除して計算されます。

ESG 分類

当行は、サステナブル関連ファイナンスおよび投資の取引を「Sustainable Financing framework - Deutsche Bank Group（サステナブル・ファイナンスのフレームワークドイツ銀行グループ）」（英文）（<https://investor-relations.db.com/>から入手可能です。）において定義しました。当行の目標における累積の定義に鑑みて、フレームワークに照らした検証が報告する四半期末までに完了できない場合には、取引高は翌四半期以降において検証が完了次第報告されます。アセット・マネジメントでは、DWSが、関連法規（規則（EU）2019/2088-SFDRを含みま

す。)、市場標準および社内開発を考慮して、独自の ESG 商品分類フレームワーク (以下「ESG フレームワーク」といいます。) を 2021 年に導入しました。ESG フレームワークについては、DWS の 2021 年の年次報告書 (英文) の「当行の商品ー主な概要 / ESG 商品分類フレームワーク」の表題のもとで詳しく記載されており、<https://group.dws.com/ir/reports-and-events/annual-report/>から入手可能です。2023 年第 3 四半期において、ESG フレームワークの変更はありません。DWS は、今後策定される規制および市場実務に応じて ESG フレームワークを発展させ精緻化していきます。